

まちの話題

青年海外協力隊として パプアニューギニアへ



▲平安市長へ報告を行った手嶋正志さん(写真右)

12月16日、手嶋正志さん(24歳・大保原)が国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊としてパプアニューギニアへ2年間派遣されることを、平安正知市長に報告しました。病院で理学療法士としてリハビリテーションの業務に携わってこられた手嶋さんは「中学・高校のころから海外でのボランティアをしてみたいと思っていました。現地では、病院でのアシスタントの方への指導や村の訪問リハビリを確立していく業務に携わります。マラリアなどの感染症が多く、言葉や食べ物に不安もありますが、楽しみながら仕事ができたらと思います。」と語りました。平安市長は「志に敬意を表します。夢も不安もあるでしょうが、とても貴重ないい経験になると思います。日本人としてしっかり貢献できるよう頑張ってください。」と激励しました。

外国人と楽しく交流



▲外国人によるスピーチの様子

小郡市や近郊で生活している外国人を対象にした交流会が12月11日に生涯学習センターで行われました。

この交流会は、外国人に日本や小郡での生活の情報交換や出身国の話などで楽しく交流してもらおうと、小郡ロータリークラブ、国際ソロプチミスト小郡、おごおり国際交流協会、小郡市が共同で開催しており、今年で13回目を迎えました。

「日本の印象ビフォーアフター」、「私の国と日本」などをテーマとした外国人によるスピーチに始まり、日本舞踊や和太鼓などの日本の文化に触れた後、参加者による歌や踊りなどで交流しました。スピーチでは、熱く語っていただきました。

花立区左義長



1月8日の早朝、花立区の左義長が開催されました。花立区では昭和30年頃までは隣組ごとに行われていたこの催しが、いつの間にか消滅していたことから、地域の活性化の一助になればと、昨年50年ぶりに復活されました。

前日から地元の方が竹や井桁を組んで準備をした竹櫓に火が点けられると、天高く炎が立ち上がり歓声があがりました。子ども会(保護者)や老人クラブなど大勢の人が集まり、お神酒、雑煮や焼かれた鹿や猪の肉などが振る舞われ、この1年の無病息災・家内安全・五穀豊穡を祈念しました。

帆足和幸投手激励会



12月21日、「帆足和幸投手後援会」主催による第7回目の激励会が開催されました。後援会長のあいさつに続き、来賓祝辞や小学生代表による花束贈呈が行われました。帆足投手は「次のシーズンも1球1球を大切に、故郷のため、小郡のため精一杯頑張ります」と謝辞を述べました。参加者からのたくさんの激励のことがあったり、帆足投手から提供されたグッズの抽選会も開催され、たいへん賑わいました。

昨シーズンの成績は11勝8敗、防御率3.69の素晴らしい成績で、埼玉西武ライオンズのなくてはならない大きな存在となりました。今シーズンは選手会長にも任命され、さらなる活躍が期待されます。